

(2) 研究発表②

「ステップアップインターンシップ」

宮城県石巻北高等学校飯野川校 教諭 大橋 孝幸

1 ステップアップインターンシップの導入

本校では平成26年度から三修制を実施するにあたり、進路指導についても大きく見直してきた。進路行事や体験活動の充実を図ってきたものの、本校の生徒は、卒業までに十分な就労の資質を身につけられない生徒が少なくなく、不安を抱えたまま就労する生徒もいる。就労するまでに就労の資質を身につけさせるには、計画的に段階を踏ませながら身につけさせる必要があった。また、経済的理由から自動車運転免許等の資格が取得できない場合や、進学を諦める生徒も多い。経済的理由から、進路の可能性を狭めてしまわないような支援も必要であった。そのような生徒の対策として、平成29年度からステップアップインターンシップを導入した。以下は平成29年度の取り組みである。

2 ステップアップインターンシップ

ステップアップインターンシップでは、次の3点を目標に設定した。

- ①就労の資質を段階的に高める。
- ②就労が難しいと感じている生徒を支援する。
- ③就労で進路の可能性を広げる。

①就労の資質を段階的に高める。

就労に必要な資質を向上するために、生徒一人ひとりの資質に合わせた支援をし、段階的に資質を高める。希望する職業のインターンシップ前に、簡単な実習や就労体験をし、段階的にレベルアップができるようにする。

②就労が難しいと感じている生徒を支援する。

折り紙やカップスタックスで手先を器用にする練習や、コミュニケーション能力を高めるト

レーニング・支援をし、就労への不安を解消できるようにする。

③就労で進路の可能性を広げる。

実習補助等の収入が得られる就労体験やアルバイトを支援し、資格試験講習料や運転免許資金、進学先の学費等を確保できるようにする。

4 支援団体との連携

ステップアップインターンシップを推進するにあたり、地域の力を生かし、生徒が外部の方と関わる機会を多く持つようにできるため、下記の支援団体と連携した。また、進路行事にも連携団体の支援を依頼した。

(1)「石巻NOTE」との連携

月に3回来校し、就労相談、「自分トリセツ作り」、ソーシャルスキルトレーニング、適性検査を実施した。生徒が定期的に関わりを持つ機会となった。「マインドマップ作成」では、単語の数が増えていったことから、考えの幅が広がる効果があった。また、就労が不安と考えている生徒を対象に、訓練費支給型インターンシップを4カ所で8人が実施した。

(2)「石巻若者サポートステーション」との連携

「1年次ものづくり体験」では、からくり写真ケースづくりをし、ものづくりの楽しさを体験した。4年次就職希望者を対象に実施した「就職セミナー 社会人はなぜ働くの？」では、働く意義や目的を考える機会となった。「就労体験」は、実習後にその会社に就職を希望する生徒を対象に、水産工場と農場の2ヶ所で実施した。

(3)「石巻サポートセンター」との連携

4年次と三修制3年次対象とした「自己分析セミナー」と「面接セミナー」を実施した。生徒は、複数の外部講師の方から専門的な指導を受けて意欲も高まり、積極的に取り組んだ。

(4)「宮城県東部地方振興事務所」との連携

ヴォイストレーニングセミナー「声と話し方セミナー」を実施した。フリーキャスター・アナウンサーである講師の方から本格的な指導を受けた。口の開き方や発声法を実践的に学び、生徒がコミュニケーション能力を高めようとする意識が持てた機会となった。

(5)「社会福祉法人みやぎ会」との連携

インターンシップは、短期でも長期でも、また、就労の資質が不足している生徒でも受け入れを認めて頂いている福祉施設である。平成29年度は、三修制インターンシップで、福祉の仕事を希望している生徒が4日インターンシップをした。その後、その生徒この施設に就職が決まった。

(6)「株式会社高砂長寿味噌本舗」との連携

3年次が地域の産業を見学・体験して理解する「地域の産業学習会」を実施した。工場見学では、地域の会社が企業活動を通して、地域に貢献しようとする思いや製品への思い入れについて学ぶことができた。また、本校の学校農園で栽培した野菜を持参し、同社からは味噌を提供いただき、豚汁とみそ玉をつくった。

(7)「石巻2.0」との連携

様々な職種の身近な若い社会人を招いて、仕事のやりがいや学生時代の体験などの対話を通じ、主体的に働くこと・生きることへの動機づけを図る「ミライブラリープログラム」を実施した。生徒は、社会人が話す学生時代の悩みや仕事での失敗等に共感し、自分の進路をよく考える機会となった。

6 インターンシップ

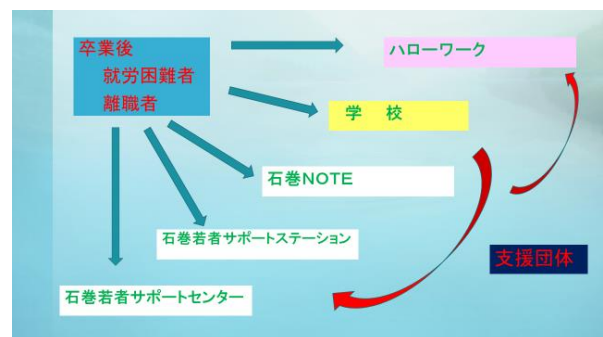
平成29年度に三修制での4日間のインターンシップをした生徒は11名であった。3学期に2年次以上でインターンシップ未経験者をピックアップし、支援団体の協力を得ながら短期のインターンシップを行った。2年次以上の生徒がこれまでにインターンシップした回数は、のべ回数で平均1.13回となった。

7 その他の取り組み

手先が器用でなかったり、作業が遅くて就労に自身がない生徒に対して、折り紙やカップスタックス、ドローン操作の練習を勧めた。最初は上手いかなかった生徒も少しずつ上達したことから、次の活動への意欲につながっているようであった。

8 就労の連携

卒業までに就職できない場合や、卒業後に離職した場合は、下図のように連携する。



8 今後の課題

平成29年度の卒業生は、平成30年5月までに進路決定したが、就労が難しいと考えられる生徒が就職するまでには困難を極めた。就労の資質を向上させるには、さらに効果のある支援や時間が必要だと感じた。また、学校での係活動や学習、家庭での手伝い等、支援する側も本人もめあてを持ち、毎日の生活で継続的に取り組む必要がある。

今後も、どのタイミングでどんな支援が効果的であるか検証しながら、根気強く支援をしていきたい。